

現状と課題

- がん治療においては、がんと診断されてから、早い段階で相談支援や切れ目のない緩和ケアに繋げる必要がある
- がんと診断されても慌てず、適切な治療・療養が行えるよう、診断前から相談できる場所を知っておくことが重要
- にもかかわらず、がん患者の「がん相談支援センター」の認知率・利用率は高くない

がん患者の約3/4の方が、
がん相談支援センターを「知らない」
「利用したことがない」と回答

がん相談支援センターがあることを知らない, 16.8%

病院内にあることは知っているが、利用したことはない, 59.8%

無回答, 5.4% 病院内にあることを知っており、利用したことがある, 17.5%

病院内にあることを知っていたが、本病院ではなく別病院のがん相談支援センターを利用したことがある, 0.5%

(「東京都がんに関する患者調査(令和4年度)」より)

- 「東京都がんポータルサイト」のリニューアルにより、センターに関するページのアクセス数は着実に伸長しているものの、それだけでは周知は十分とはいえない
- 特に、デジタルデバイスで情報収集をしない方（高齢者等）や、がん相談支援センターが設置されていない医療機関を受診している方は、センターの存在を知る機会が少なく、必要な支援に繋がることができていない

都民に直接アプローチする手段が必要

普及啓発方法

★がん相談支援センターの相談実施内容や連絡先等を掲載したリーフレットを作成

★がん患者等が利用する医療機関や区市町村窓口にて対象者へ直接配布

＜リーフレット配布のメリット＞

- ・デジタルデバイスで情報収集をしない方にもリーチできる
- ・相談支援が必要な方に直接訴求できる
- ・情報を手にしてすぐセンターに連絡できる
- ・手元に残るため、後から思い出したり、見返すことが容易
- ・家族で一緒に見るなど情報の共有や波及効果が期待できる

配布対象・設置箇所・部数

配布対象

- がん相談支援センターが設置されている病院以外で、治療を受けている患者やその家族
- センターが設置されている病院で治療を受けているが、センターを利用したことがない患者やその家族
- がん検診で要精密検査と判定された方、精密検査の結果がんと診断された方、健康診断を受診し健康への関心が高まっている方等

設置箇所

- 都内病院及び診療所 → がん患者、各種検診・健康診断受診者、がん以外の疾病により受診した患者等へ周知
- がん診療拠点病院 → センター未利用者、他院のセンター利用を希望・検討されるがん患者へ周知
- 区市町村 → 区市町村が実施する各種検診・健康診断や、各種申請窓口に来訪した都民へ周知
- 東京都及び地区医師会 → 医療機関への周知、及び周知にあたっての説明用

部 数

約12万部程度を予定

事業実施スケジュール

	～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「がん相談支援センター」 普及啓発リーフレット 作成・配布	東京都にて素案作成	共生部会にて検討	ご意見反映・デザイン入れ～校正		共生部会にて確認	修正・校了	印刷・納品・配布

リーフレットのコンセプト

- ・ 患者本人の心情や立場に寄り添った内容とデザイン
- ・ 読みやすさ・分かりやすさを重視した情報量とテキストスタイル
- ・ 本リーフレット一つで希望の相談場所にすぐに繋がることのできる

本部会にてご確認・ご検討いただきたいこと

- ① 本リーフレットに掲載する「内容・要素」に過不足はないか
- ② 相談内容例などに用いる文言の「表現・言い回し」は適切か

実際に配布される病院様や、手に取られる患者様の視点でご意見いただければと存じます